

城山エコミュージアム通信

平成28年(2016)6.15 第28号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

地域紹介

町屋地区



町屋橋 ~小松川に架かる橋~



現在の町屋橋



町屋を流れる境川の支流小松川には、狭い範囲に町屋橋、町屋小橋、新町屋橋、砂の橋(須南橋)が架かっていますが、現在は道路の一部ようになっていて気付かずに渡っている人が多いと思います。その中の町屋橋ですが、昔は土手も低く流れも浅かったので、石を並べてその上を通っていたそうです。最初に架けられた橋らしい橋は丸太を並べたもので、宝泉寺の檀家のひとつが、お寺に行くために架けました。最初に葬式の列が通ったところから「縁切り橋」といわれ婚礼の時は決して渡らないという迷信ができたそうです。丸木橋はとうの昔に村で架け替えられ、名前だけが残っていました。関東大震災でも崩れ落ち架け替えられました。

また、町屋橋は、昭和15年に紀元二千六百年の記念事業(*注)の一つとして新しく架け替えられました。落成時にこの縁切り橋の迷信は時代遅れだ、この機会にお祓いをしようということになり、川尻八幡宮の神主にお祓いをしてもらいお神楽をあげて盛大にお祭りが行われました。今では昭和23年に鉄筋の広い橋になり、迷信を知っている地元の方もほとんどいません。(田畑 房枝)

参考 『城山夜話』八木鳥雨

*注 紀元二千六百年記念

...1940年(昭和15年)神武天皇即位紀元(皇紀)2600年を祝った。全国で記念行事、記念事業が行われた。



昭和15年の町屋橋

昭和15年の落成記念の写真 当時の川尻村村長・加藤泰次郎氏をはじめ役場の職員・工事関係者・巡査・近隣者が並んでいる。背後の左脇にあるのが「神楽」の舞台。



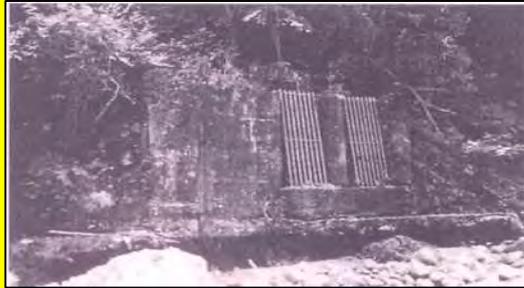
大正時代の町屋橋

今回のトピック 地区紹介「町屋地区」町屋橋 「城山地区と震災」 シリーズ養蚕「カイコの祖先クワコ(2) 活動報告「3月の学習会報告」 平成28年度総会結果報告、ツアー開催日決定のお知らせ他



城山地区と震災

2011年の東日本大震災に続き、今年4月には熊本地方を中心とした大きな地震がありました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。さて、城山地域においても過去何度か大きな地震を経験しています。



村営発電所の取水堰堤跡

震災でも消えなかった村の灯り

大正9年(1920)湘南村では、当時でも珍しいとされた村営の発電所が稼働しました。

堅固に造られた発電所は、関東大震災の夜にも電灯を灯し、真っ暗な近隣の村に対して、湘南村だけが明るかったと言います。

【参考】『町史の窓(復刻版)』



かんとうだいしんさい かんとうおおじしん 関東大震災(関東大地震)

大正12年(1923)9月1日、マグニチュード7.9の地震が関東南部地方を襲い、東京・横浜は壊滅的被害を受けた。「県下最軽微の被害郡」と言われた津久井郡でも死者32名、負傷者12名、行方不明者2名、家屋全壊・半壊320戸、その他道路崩壊・橋梁破壊などの被害が出ました。

城山地区では、川尻村で住居全壊1戸、半壊5戸、物置全壊11棟、半壊4棟で、負傷者はいませんでした。三沢村では、建物全壊1戸、土蔵全壊6棟、半壊1棟、林道崩壊、村内での被災者はなし。他地域に住んでいた人のうち4名の方が亡くなりました。湘南村では、家屋全壊5戸、半壊1戸、被災者はなし。直接的な被害は少なかった地域ですが、暴動がおこるとい噂が聞こえてくるなど、不安な日々を過ごしていたようです。

また川尻村では、村内から梅干し、沢庵を集め、9月7日の未明に救援物資を5台の荷車に積み、横浜の伊勢佐木町へ救援物資届けました。湘南村の青年団員も、9月28日の夜、6台の大八車に野菜やサツマイモを載せて、横浜の被災者に届けています。



たんざわじしん さがみじしん 丹沢地震(相模地震)

関東大震災の翌年、大正13年(1924)1月15日、丹沢山地を震源としたマグニチュード7.3の地震が起きました。地域での体験者は「前年の地震より激しく感じた」と伝えています。



げんろくおおじしん 元禄大地震

元禄16年(1703)11月23日、江戸時代をとおして相模国内で最大の地震(マグニチュード7.9~8.2)が、関東地方南部を襲いました。残念ながら城山地域には記録が残っていませんが、小田原城は天守・本丸・二の丸屋敷などが倒壊し、野津田村(町田市)でも、家屋49戸が倒壊し、残る大部分も半壊状態であったと記録されています。

いつ起きるかわからない地震ですが、過去の教訓を生かし、防災の意識を高めましょう。(齋藤 雄也)

【参考】

- 『城山町史』6・7
- 『城山風土記-近現代編-』
- 『町史の窓(復刻版)』
- 『理科年表 平成24年』



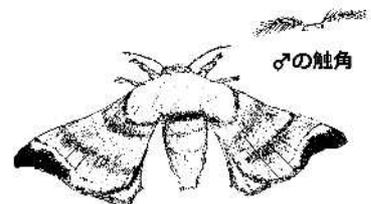
第6回 カイコの祖先「クワコ」(2)

シリーズ



クワコはクワの葉の間に繭を作りますが蚕の繭をごく薄くした感じです。冬にクワが落葉した中、羽化し終えた繭と枯葉が枝に残っているのが見られます。我々が住んでいるこのあたりでも見られますよ。カイコの成虫が翅(はね)が小さく、飛ぶための筋肉も退化して飛べないのに対し、クワコの成虫は灰褐色の翅をもち、普通に飛ぶことができます。

クワコとカイコの特徴を比較して書き上げてみますとクワコが厳しい自然の中で生き抜くようできているのに比べ、カイコが長年の改良により家畜化され自然の中で生き抜く能力を失っているのがわかりますね。(山口 雅之)



クワコ(♀)

春の研修会を開催しました



運営委員会の新たなメンバーの交流と、知識の共有のため学習会を開催しました

3月20日(日)学習会「久保沢地区の石造物について」開催

『大正寺の百体地蔵について』をテーマに、学習会を実施しました。はじめに大正寺の百体地蔵を見学しながら、大正寺の百体地蔵の由緒・由来、銘文及び造立した石工北原七兵衛の年譜、『首なし地蔵』の銘文などについて学びました。次いで城山公民館に席を移して、高遠の石工守屋貞治の、信仰心と作風、作品とその芸術性などについて講演がありました。今回は会員の学習会にも拘わらず、隣保相原からの多くの方々をはじめ遠く南区の方などの参加を頂き、郷土の石造物について楽しく学習させて頂きました。石仏の魅力を分かり易く・熱く語って下さった村田公男さん、ありがとうございました。(橋本 勝邦)



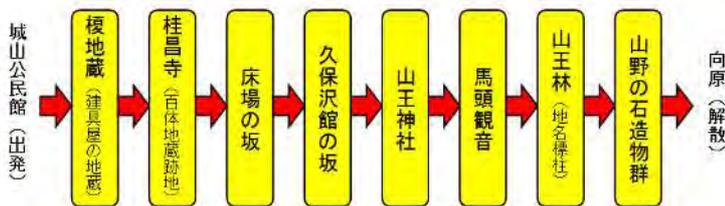
大正寺百体地蔵の前で
講師の村田公男さん

3月23日(水)学習会「向原散策」開催



楽しみながら地域を歩きました

行程表



城山エコミュージアム運営委員会は、ここ数年新たに数名の会員を迎えました。城山地区外からの参加も増え、城山地区を知らない、歩いたことがない方が多くなりました。そこで、女性委員の企画による「向原散策」を開催しました。これは、実際に歩くことで地域に関心を持ち、調べるきっかけとする事を目的に開催したものです。今回は向原地区にある石造物をめぐるルートを歩きました。当日は、昔を知っている人にも驚く発見があり、充実した1日となりました。運営委員の他、つどいに参加頂いた方も含め16名で歩きました。解散後は有志で地元のお店に立ち寄り昼食会。美味しいランチを頂きました。打ち上げには男性陣が「冷たいもの」を頂いていましたが...次は私も頂きたいです。ご参加頂いた皆様、お疲れ様でした。(木村 悦子)

知ってナットク!
しるやま



問題

川尻八幡宮は、参道の両側に並木が続いていたので、「並木八幡」と呼ばれていました。それは何の並木だったのでしょうか？

梅 桜 松

(出題者 田畑 房枝)

INFORMATION

平成 28 年度運営委員会総会を開催

4月24日(日)、平成28年度相模原市城山エコミュージアム運営委員会総会を開催しました。平成27年度の事業結果報告に続き、今年度の事業計画案を提案し、承認されました。委員長、副委員長および他の役員の選出等を行いました。委員長には塩谷弘道(再任)、副委員長には樋口孝治(再任)を選出し、承認されました。今年度も城山エコミュージアムをよろしく願いたします。(佐々木 徹)

平成 28 年度 城山エコミュージアムツアー開催日決定

毎年ご好評頂いているツアーのテーマ及び開催日が決定しました。詳しい内容については、これから準備を進めます。ご期待ください。

テーマ：境川流域の自然と歴史を訪ねる

～ 町屋から当麻田方面へ～

開催日：平成28年10月22日(土)

雨天、荒天の場合は、10月23日(日)に順延
9月から受付予定



イソヒヨドリ(ツグミ科)



イソヒヨドリ(オス)

「5年ほど前から公民館の周りに青い鳥がすんでいる」と公民館ご近所にお住まいの方から情報を頂きました。鳥の名はイソヒヨドリ。オスは頭から背中にかけて青色、胸部は赤茶色。メスはこげ茶色。大きさは25センチ位。海岸の岩場等にすむ鳥ですが、最近は市街地のビル等でも見られるようになったそうです。4月半ばには、草木をクチバシにくわえ、電線の上にとまっている姿を観察する事ができました。公民館の窓から外を眺めると、電線の上にさまざまな鳥達が頻繁にとまっています。どうやら城山公民館は人だけでなく鳥達の憩いの場にもなっているようです。(山口 園子)

次号(第29号)は、9月15日頃発行予定です

城山検定 解説

答え 松

「新編相模国風土記稿」によると、一の鳥居から神社の参道沿いに立派な松の並木が続いていたことから別名を並木八幡と呼んでいました。古地図などから、現在の参道より道幅も広く一直線の立派な参道だったことが分かります。この松41本は、相模原の原清兵衛氏に売られ、その代金で川尻小学校を建てたといわれています。そのためか、川尻小学校は他の町村よりも早く開校することができて、堺村の青木氏や相原村の河津氏、八木重吉もこの学校に通っていました。

*参考 『春林文化第3号』
(田畑 房枝)

募集

参加メンバー募集中
性別・年齢・経験不問

地域の魅力を発掘する活動です。趣旨にご賛同いただける方はどなたでも参加可能。ご一緒にはじめませんか？お気軽にお問合せください。



編集後記

町屋の住宅地で美しい青い鳥を見てからずっと気になっていました。今回イソヒヨドリという鳥で、公民館に棲んでいるのが分かり嬉しく思いました。近所を歩くだけでも発見があります。エコミュージアムの活動を通して、いつの間にか地域を観察する習慣ができているのかもしれない。(笑)(田畑 房枝)

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>

